

日本医史学雑誌 第四十七卷 第四号 目次

原 著

公衆衛生の確立における日本と英国——長与専齋とE・チャドウィックの果たした役割……………上林 茂暢……………六五
山形県における近代産婆制度成立過程に関する研究……………高橋みや子……………六九七

——明治三十二年までの産婆規則類の制定を中心に……………平尾真智子……………七五七

大正四（一九一五）年制定の「看護婦規則」の制定過程と意義に関する研究……………遠藤次郎・中村輝子……………七九七

新発見の医書、田代三喜『本方加減秘集』に見られる医説——基本処方と加減方……………長与 健夫……………八二九

研究ノート

永富独嘯庵から小石元俊へ——江戸時代中期の医の先哲……………町 泉寿郎……………八三七

資 料

吉益家門人録(二)……………高橋 均・坂田 育弘・児玉重隆……………八四四

癸亥 春林軒統薬方冊(二)……………例会抄録……………八五四

記 事

例会記録……………Grace Elizabeth Alt による第二次世界大戦後の看護改革……………大石 杉乃……………八五〇

吉益東洞と道家・道教思想……………お雇い外国人医学教師ヴェルニツヒの生涯と業績……………館野正美・大山昌道……………八五五

私の垣間見た近世漢方史の一面……………浦原 宏……………八五七

吉益東洞『古書医言』における儒教経典……………菊谷 豊彦……………八六〇

書籍紹介……………館野正美・大山昌道……………八六〇

吉良枝郎『日本の西洋医学の生い立ち』……………大島 智夫……………八六三

瀧澤利行『健康文化論』	日野秀逸	八六四
芝木秀哉『順天堂経験——嘉永年間に於ける日本の医療の実録』	藤田俊夫	八六五
浅野弘毅『精神医療論争史』	岡田靖雄	八六六
岡田靖雄『精神病医 斎藤茂吉の生涯』	小峯和茂	八六八
山崎光夫『日本の名薬』	青木允夫	八六九
D・フロリー、V・ラッド『アーユルヴェーダのハーブ医学』	根本幸夫	八七〇
森川政一『昭和前期上越医界史』	蒲原宏	八七一
文庫めぐり		
宗田文庫	杉立義一	七五

《本号の表紙絵》

今世紀最大の科学史家
ジョージ・サートンの蔵書票

サートン(1884-1956)の偉大さについては今さらいうまでもない。化学と結晶学の研究をめざしてベルギーのアントワープ大学に入学したが、その直後から科学史研究の構想が芽生えた。大学卒業後この構想はいよいよ不動のものとなり、資料の収集につとめた結果の集大成があつた有名な *Introduction to the History of Science* (1927-1948) である。

本書は従来の科学史書とは異なり、自然科学の分野ばかりでなく人文科学の分野もカバーしている。しかし構想が壮大であつたばかりに、寿命との競争で一四世紀で終つてしまったのはやむをえないとしても、エジプト科学については「ギリシア人が、多くの点でエジプト人の影響をうけたことはわかっているが、エジプトの学問がどのようにしてギリシアに伝えられたかを、完全にも精密にも述べることはできない」(平田寛訳)と、わずかに二行ほどで片付けているのは理解しがたいところである。

これを前提として考えると、この蔵書票にエジプトの理知の女神イシスを配したことは、彼の願望の一端をあらわしたものであるということではできないだろうか。

(深瀬 泰旦)